

学校関係者評価 会議 議事録

会議名：学校関係者評価に関する説明・意見交換

主催：学校法人せとうち／日本ITビジネスカレッジ

日時：2025年9月26日（金） 14：00～15：00

場所：日本ITビジネスカレッジ201教室

出席：理事長、校長、地域代表、識者、業界識者 7名

1. 開会・趣旨説明

- 本会議は「学校関係者評価」に先立ち、教職員による自己点検・自己評価の結果を共有し、関係者からの率直な意見をいただくための場。
- 日頃感じていることを忌憚なく共有いただきたい旨を確認。

2. 学校の現状報告

2-1. 財務・収支状況

- 令和5年3月以降、純資産（債務超過）が拡大し厳しい状況。
直近「3月」時点で若干の持ち直しの兆しあり。
- 事業活動収支：令和5～6年3月期は大きな赤字。
直近「3月」に黒字へ転換（ごく僅差）。

2-2. 定員・在籍

- 定員：160 → 240 → 232（推移）
- 在籍：令和2年 174名 → 令和7年5月1日 163名。
10月に日本語科で十数名の入学見込みで、約180名へ（見込み）。

2-3. 卒業生の進路（直近3月）

- 国際ビジネス学科：卒業13名。就労7名（※内訳：帰国・進学・その他）。
- 介護福祉学科：卒業4名全員就労。国家試験4名受験・3名合格。
- 日本語科：卒業28名。うち1名は母国大卒で就職・在留資格取得。
残りは専門学校進学。約10名は学内進学。

2-4. 在籍状況（9月）

- 1年生 79名／2年生 83名、計162名。
- 大半が留学生。出身国はネパール、ミャンマー、ベトナム、スリランカ等。

2-5. 今後の学生数・収支見込み（概況）

- 今年度10月 約180名→来年度 (※190名) →翌年度 約200名 (目標)。
- 純資産(債務超過)見込み：
 - 来年3月 ▲8,000万円
 - 翌年度 ▲6,700万円
 - その次年度 ▲5,000万円

3. 重大課題：日本語科の認定と債務超過

- 所管が出入国在留管理庁→文部科学省へ移管。
- 日本語教育機関の再認定が必要で、2年以内に債務超過解消が条件。
- 解消ができない場合、日本語科の継続が不可となる可能性。
- 対応案として、寄附・別法人化・資産移管等も選択肢として言及(要検討)。

4. 産学連携・ハッカソンの取組

- 前年度：NEC、Jテック等と実施。
- 今年度：システムエンジニアリング岡山(SEO：県内90社超のIT団体)と連携。
岡山情報ビジネス学院(OIBC)等と5チームで地域課題のLP制作に取り組む中。
- 発表会：10月23日(木)@岡山情報ビジネス学院(※日付・曜日要確認)。
- 参加者は約70名規模に拡大。SEO各社からメンター参画。
- 目的：学習成果の可視化・企業評価を通じて就職に直結させる。

5. 自己点検・自己評価の紹介

6. 意見交換・課題整理

6-1. ITカリキュラムとAI時代への対応

- AIの普及で実務が変化。基礎スキル(プログラミング等)に加え、AI活用を両輪で育成。
- 企業側から、**コミュニケーション力・文章作成(報告書等)**の重要性が強調。
- 学生の理解度格差や*題の類似提出(不正・コピペ疑義)が指摘され、学修倫理の指導強化が必要。

6-2. 日本語力の低下と資格対策

- 入学者の日本語力が低下傾向。JLPT未取得の学生が多い。
- 就職活動では資格が重要なため、後期からJLPT対策を増設。
- N4相当からN2受験などの無理な受験計画が散見→適切な受験指導が必要。
- 介護領域では国家試験合格率向上と日本語運用力強化が喫緊。

6-3. 地域連携・学生生活

- 地域イベント（瀬戸内夜市、だんじり、朝鮮通信使関連 等）へのボランティア参加を継続。
直近、9月27日（土）瀬戸内市商工会青年部主催お祭りに約40名のボランティア参加予定（主に日本語科／専門課程6名）。
- 生活指導（ゴミ・夜間騒音など）で苦情が発生するケースがあるが、地域有志の協力で収束。
- 交通事故（自転車と自動車）**の事案あり。警察・学校へ必ず連絡するよう再指導。

6-4. アルバイト・就労

- 来日直後の学生は日本語面でアルバイト適応が課題。
- 企業・地域からは「熱心でよく頑張るが、日本語の伝達が不安」との声も共有。